

「地域密着型金融の取組み」の進捗状況

令和 2 年 6 月 23 日

各 位

福島信用金庫
理事長 樋口 郁雄

「地域密着型金融の取組み」の進捗状況について

(平成 31 年 4 月 ～ 令和 2 年 3 月)

地域密着型金融の取組みについて、平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月までの進捗状況をお知らせいたします。なお、進捗状況については、下記のとおりです。

記

1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援

(1) 経営改善支援

- ・取引先企業 48 先を対象に経営改善の支援に取り組みました。厳しい経済環境下 2 先の債務者区分が改善しました。

(2) 創業・新事業支援

- ・令和元年度は、全店で創業先 31 先を支援しました。なお、福島市・伊達市の特定創業支援事業としての「ふくしん創業塾」を開催、13 名が参加しました。

(3) 事業承継支援

- ・事業承継は地域の大きな課題となっており、当金庫は円滑な事業承継のために、外部機関とも連携し、取引先のニーズに合わせ課題解決のお手伝いをしています。実訪問（プッシュ訪問）支援 33 件、個別相談会支援（予約制）22 件でした。

2. 事業価値を見極める融資をはじめ中小企業に適した資金の提供

(1) 目利き力の向上および企業再生支援実践へ向けて

- ・お客様の期待に応えることができる「課題解決型金融を担う」人材育成に向け、全国信用金庫協会主催研修に 12 講座 12 名、東北地区協会主催 11 講座に 15 名、県協会主催 4 講座に 16 名、そして金庫独自の土曜講座(全信協実務試験対応等)を 5 回開催、延べ 105 名がそれぞれ熱心に取り組んだほか、「渉

- 外担当者基礎研修」・「女性渉外基礎研修」で現場力強化にも力を注ぎました。
- ・お客様に頼られる知識の集積と職員の自己実現への関与を金庫でバックアップすべく資格習得を強く推進、FP1級の取得2名、中小企業診断士資格取得1名、そして宅地建物取引士資格習得1名の結果となりました。

(2) 金融円滑化への取組み

- ・令和2年3月現在、中小企業や、個人事業者から8,609件103,729百万円の借入条件変更申込を受理、うち8,510件100,053百万円を実行し、28件143百万円を審査中です。申請企業の動向と可能性を金融円滑化の観点から慎重に見直し、できる限りお客様の立場で考えた再構築に向けて、お申込件数の98.8%に取り組みを実施しました。

(3) 担保・保証に過度に依存しない融資と財務の推進

① 動産担保融資（ABL）

企業の新たな資金調達手段と過度な担保や保証に依存しない融資手法として、動産担保融資に取り組んでおり、元年度は太陽光発電設備へのABLを5件実施しました。

② ふくしま夢の懸け橋ファンド

福島信用金庫とフューチャーベンチャーキャピタル㈱と共同出資し始動した「ふくしま夢の懸け橋ファンド」の第6号から第10号に、それぞれ融資を実行しました。

第6号 福島市の污水浄化処理会社

第7号 福島市のロボットアーム関節装置製造販売会社（追加投資）

第8号 福島市の警備業務教育会社

第9号 福島市のフィットネス運営会社

第10号 福島市のアプリ・システム開発会社

3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

(1) サンデーバンキング実施による多様な金融ニーズへの対応

- ・北支店、南支店の相談実績は融資相談が503件、資産運用相談が142件、年金相談が61件でした。

(2) 総合相談センターでの各種相談の実施

- ・住宅・消費者ローン相談が840件、年金相談が163件でした。（電話相談を除く）

(3) ビジネスマッチングと異業種交流

- ・城南信用金庫「2019“よい仕事おこし”フェア」東京国際フォーラム(令和

元年 10 月 7 日～ 8 日)に当金庫のお取引先 3 社がブース出展しました。

- ・ 東北地区信用金庫協会「ビジネスマッチ東北 2019」夢メッセみやぎ（令和元年 11 月 7 日）に、当金庫お取引先 24 社がブース出展しました。
- ・ 販路の拡大に向けて信金中央金庫「旬彩カタログ」に当金庫お取引 2 社の商品を掲載したほか、ふくしん含む東北管内 9 金庫と信金中央金庫が地方創生の一環として「東北しんきん缶詰の頂」を組成、『ご当地缶詰パンフレット』を作成、全国に向けて情報発信しました。
- ・ ふくしん若手経営者会では、「31 年の歩み」をテーマに企業経営者である 株式会社 利久 代表取締役社長の 亀井 利二 氏の講演会を開催しました。

(4) 地元三大温泉郷（地域観光拠点）への誘客支援

- ・ 平成 31 年 2 月 19 日、例年どおり理事長名による「三大温泉郷への誘い」文書とパンフレットを全国の個別金庫理事長あて送付。結果、令和 2 年 3 月に東京都小松川信用金庫が 2 班構成で 240 名、同じく東京さわやか信用金庫が 8 班構成 1,200 名の誘客に結実したが、コロナウィルス・クライシスにより計画は中止となった。さわやか信金、次年度も候補へ。
- ・ 飯坂温泉紹介で接近した東京足立成和信用金庫「新現役交流会」に終日参加、当金庫施策の導入滑走路と位置づけた。
- ・ 足立成和理事長が「献上桃」に着目、伊達果実農業協同組合から仕入れた桃を材料に足立成和お取引の洋菓子店シェフが創作パイを販売、好評を得た。シェフと面談、サンふじの PR を展開した。
- ・ 阿武隈急行沿線活性化フォーラム・ワーキング部会に継続して積極的関与、金融庁・東北財務局等の職員と交流、「ちいきん会」発足のトリガー役を務めた。

(5) 地域貢献および経済教育への支援

- ・ 令和元年台風 19 号水害に係る梁川町へのボランティア派遣、梁川支店、お客様の声を役職員が実調して情報収集、直ちに機関決定し全営業店から 100 名を募集、平日僅少となるボランティア補強として 10/28(月)～11/1(金)20 人ずつ梁川町に派遣し、被災者とともに片づけ作業を実施した。本件について斡旋した NPO が国会で事例発表し、金庫存在事由を提出した。
- ・ ふくしんマネースクールを福島市で 2 校、伊達市、川俣町、桑折町それぞれ 1 校ずつ計 5 校で実施、総勢 194 名の小学校高学年のこどもたちに「お金と働くことの大切さ」、「家族へ感謝する気持ち」などを楽しく、わかりやすく教示、ともに学習しました。
- ・ コミュニティ FM (FM ポコ)にて地域活性化支援課長が毎月第三土曜番組の DJ を務め、地域の様々な階層からゲストをお呼びして、地域活性化のヒントについて話題を拡散、福島の明日を探っています。

- ・復興支援「東北・夢の桜街道運動」に係る県北一円の小学校児童による第7回絵画コンクールを主催、34校 1,188枚の子どもたちの夢と希望にあふれた絵が寄せられました。
- ・明日の福島をつくる子どもたちを励まし、応援することを目的に未来志向支援金の第7回「ふくしんこども応援賞」を募集、文化・スポーツ23団体から応募があり、最優秀“もも賞”の〔余目一輪車クラブ〕を含む13団体に表彰状と応援金を交付しました。
- ・「うつくしまあるきめです」「とっておきの音楽祭」等の地域イベントには、積極的に協賛・参加することで、地域活性化の底上げに協力しました。
- ・8回となった「とっておきの音楽祭」には、西・森合支店長始めフレッシュな職員22名がボランティア参加、ともに汗を流しました。
- ・「しんきんの絆」一般枠に応募、採択後に関係が深化した一般社団法人が継続実施する〔農業高校6次化起業家育成支援事業〕で金融機関審査の役割を務めたほか、認定NPO法人のイベント支援で広報活動をバックアップ、新聞・テレビの役員を紹介、記事掲載と放送で地域への啓蒙活動に協力、事業成功の黒子役を務めました。なお、梁川水害ボランティアの一次情報発信元は本法人BFF。また、今年もNPO起業家支援や大学生のクラウドファンディング等の地域文化ボトムアップをめざす青年劇団員、劇団営業等の「あすなる世代」を積極的に応援、明日への道筋を一緒に開拓しました。

4. お客様満足度向上に向けた取組み[令和元年度テーマ]『原点回帰』

- ・各営業店は、すまいるリーダーを中心にセルフチェック表を活用して接遇の改善と意識向上に努めました。
- ・9月17日～10月17日の期間、「より良い金融サービスとは」をテーマに郵送アンケートを実施しました。
- ・入庫5年目職員と理事長の座談会を定例実施、「相談するならあの人だ！」をめざす自己啓発と日常業務の在り方について熱心に話し合いました。

5. 経営改善支援の取組み実績

詳細 別紙(PDF)

(1) 経営改善支援取組み率	1.55 %
(2) ランクアップ率	4.16 %
(3) 再生計画策定率	100 %

以 上